

(認定番号 第 033 号)

‘福聚桜(フクジュザクラ)’ *Cerasus* ‘Fukujuzakura’

2021 年 7 月 21 日認定 申請者 篠栗町



この桜は福岡県糟屋郡篠栗町萩尾にある呑山観音寺で古くから栽培されており、原木は境内の本堂と阿弥陀堂の隣にあります。2020 年 6 月時点、樹高は約 13m、地表より約 1.1m 付近で二幹に分岐しており、地表より 1.2m での幹周は 131cm と 86cm。村上了然副住職の祖父の頃から参拝客に親しまれてきたことや、阿弥陀堂が建立される 30 年前の写真などから、樹齢は 100 年生前後と推定され、過去には台風で太枝が折れる被害もありましたが、今はとても旺盛に成育しています。

葉は無毛で成葉裏面がやや白色をおびること、葉縁鋸歯の先端が芒形であること、花各部は無毛であることなどの形態的な特徴からオオシマザクラとヤマザクラの雑種と推定されます。類似品種の‘金龍桜’(原木所在地:三重県桑名市東方 照源寺)と比較・検討した結果、がく筒の形、がく裂片の形および鋸歯の有無などが異なることから別品種と判断しました。花卉数が 6~11 個に増加した小花が一樹中に混在すること、花は大輪で花卉が重なりボリューム感があること、白い花卉と赤茶色の新芽の組み合わせが美しいなど、観賞性にも優れた個体です。

篠栗町から呑山観音寺を経て宮若市へ続く県道沿いは、‘染井吉野’、樹芸の森、力丸ダムの枝垂れ桜、萩尾地区の八重桜など、開花期の異なる多種類の桜が見られます。‘福聚桜’も原木の保全と苗木の増殖・植樹によって地域の活性化に貢献すると期待されます。なお、品種名の福聚とは、「福が集

まる様」、「福は善のことで善行が集まっていること」、「幸せをもたらす多くの功德」などを意味する仏教用語で、呑山観音寺が命名しました。

認定品種の特性詳細

落葉性の高木で樹形は傘状、樹幹の色は灰褐色で光沢は弱い。皮目の並び方は横並びで、気根はない。枝の太さは中、色は灰褐色で新梢に毛はない。葉全体の形は楕円形、先端は尾状鋭尖形、基部はくさび形、葉縁鋸齒は単鋸齒に二重鋸齒が混ざる。先端は芒形で腺はない。葉の長さは10～15cm、幅は5～8cmで厚さは中。成葉表面の色は濃緑色、裏面はやや白色を帯び、両面とも無毛、側脈数は8～11、葉柄の長さは約2.6cmで無毛。成葉の蜜腺は葉柄上部にある。花序は散形または散房状で一花序に3～4花、花の向きは横向き、一重八重咲で開き方は平開形となる。花の大きさは直径3.8～4.4cmの大輪、蕾の色は淡紅色、開葯時の色は白色。花卉全体の形は円形または扁円形、先端の切れ込みは少、基部の形は鈍形、花卉表面のしわは少、花卉の脈は目立たない。花卉の長さは約1.8cm、幅は約2.1cm、花卉の厚さは中、花卉数は5～7個で、ときに1～2個の旗弁が有る。雌ずいの長さは約1.6cm、雌雄ずいの長さの比は雌ずいが雄ずいより長く、数は1本、葉化はなく、花柱は無毛。雄ずいの長さは約0.7cm、数は42～48本、がく筒の形は長鐘形で無毛、がく裂片は長卵状三角形で鋸齒はなく、無毛、色は紅緑色。花柄の長さは約2cm、小花柄は約2cmで無毛。苞全体の形は広倒卵形、鋸齒は芒形。花の香りは少し有り、展葉期と開花期は同時、通常開花期は4月中旬、‘染井吉野’より約1週間後に開花する。

